寛政5年、古くは「熊ノ森」と言われたこの土地に「向ケ岡公園」を造ったのは、名代官と慕われた寺西封元です。彼は窮民救済のために公園建造という土木工事の仕事を地域の人々に与え、彼らの貧しい生活を支えました。それは今でいう大型公共事業のようなものだったと推測できます。

窮民を救い、窮民の汗によって完成したこの公園は、日本最初の庶民の公園として伝えられ、今も町民の憩いの場になっています。

「塙代官所跡」は、享保14年から慶応4年までの139年間、塙代官陣屋がここに置かれていたことを物語る史跡です。

陣屋の敷地は約1650坪にもおよび、表門をはじめ御殿、公事方長屋、手代長屋などの建物が建ち並び、周囲には堀が巡らされているという立派なものでした。また、堀の外には年番所や土蔵などもあったと言われています。

こうした遺構からも、往時の代官の権威と威厳を偲ぶことができます。

「田中愿蔵刑場跡」は、幕末の志士、水戸天狗党の田中愿蔵が21才の若さで処刑された刑場の跡です。

明治維新の引き金にもなった水戸天狗党は、天治元年に300名を越える党員が八溝山に結集、再挙を企てたものの食糧が途絶え、空腹と前途への不安から分裂・解散。志士たちは山麓の関門で次々に捕らえられてしまいます。

その一人、田中愿蔵も真名畑の地で捕らえられ、当時の代官・多田銑三郎の厳しい詮議を受け、21才という若さで処刑されてしまいます。現在、刑場跡には、その霊を弔う碑が建てられています。

日本三大薬師のひとつである「薬王寺薬師堂」は、三間宝形造りの様式を持つ7・51m四方の大堂です。

建築年代は不明ですが、米山薬師中興の祖と言われた宥善上人の時代（17世紀中頃）か、それを少し下がった時代と推測され、八溝山を取り巻く広域に広まった「米山薬師信仰」の信徒たちの寄進によって建立されたものと伝えられています。

本堂は素木造りで、禅宗様式を加味したこの地方には珍しい壮大な建物です。

また、本堂は米山山頂にある奥の院の祭殿として営まれたことから、「御仮屋」の呼び名が今も残り、春には4月祭りが、夏の終りには八朔（はっさく）祭りが行われています。

塙代官所跡

田中愿蔵刑場跡

薬王寺薬師堂

向ケ岡公園

寺西封元代官